

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	国語	科目：	古文演習Ⅰ	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	『高等学校 標準古典探究』（第一学習社）		副教材	『入試対策ベストセクション古文単語３２５』（尚文出版）			
				『学ぶぞ 古文と漢文』			

年間指導目標：
古文演習Ⅰ・大学受験における古文に対応できる基礎力を、演習を行いながら養成する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

				評価方法						
		a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度				
									配当 時数	
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準		a	b	c	d	e
1 学期	中 間 考 査	文法：用言について理解し、活用表を書いたり活用の種類や活用形を答えたりできるようにする。助動詞について理解し、代表的な助動詞について意味を見分けて現代語訳をすることができる。 古語：読解必修語100語を身に着ける。 読解：宇治拾遺物語、伊勢物語 十訓抄 他	(知)	・言葉には、文化の継承、発展、想像を支える働きがあることを理解している。 ・古典を読むために必要な文語の決まりや古典特有の表現・時間の経過などによる言葉の変化について理解を深めている。		○	○	○	○	
			(思)	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を理解している。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを理解している。		○	○		○	
			(態)	・これからの学習に見通しを持って、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚をもとうとしている。 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。			○	○	○	○
1 学期	期 末 考 査	文法：用言について理解し、活用表を書いたり活用の種類や活用形を答えたりできるようにする。助動詞について理解し、代表的な助動詞について意味を見分けて現代語訳をすることができる。 古語：読解必修語100語を身に着ける。 読解：宇治拾遺物語、伊勢物語 十訓抄 他	(知)	・本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、その文化的背景を理解している。 ・本文中に登場する、我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。		○	○	○	○	
			(思)	・作品の成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。		○	○		○	
			(態)	・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 ・初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を促そうとしている。			○	○	○	○

2 学 期	中 間 考 査	文法：助動詞や代表的な助動詞について理解する。主な助動詞の識別をできるようにする。 古語：入試重要語120語を身につける。 読解：更科日記、伊勢物語、徒然草、大和物語 他	(知)	・本文中に登場する、我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典を読むために必要な文語の決まりや古典特有の表現・時間の経過などによる言葉の変化について理解を深めている。	○	○	○	○	16	
			(思)	・歌物語・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品の表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○		○		
			(態)	・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って随筆の様々な文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。			○	○		○
2 学 期	期 末 考 査	文法：助動詞や代表的な助動詞について理解する。主な助動詞の識別をできるようにする。 古語：入試重要語120語を身につける。 読解：更科日記、伊勢物語、徒然草、大和物語 他	(知)	・本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、その文化的背景を理解している。 ・本文中に登場する、我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○	○	○	○	16	
			(思)	・「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解いている。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品の表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○		○		
			(態)	・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 ・本文中に現れた作者の批評・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。			○	○		○
3 学 期	学 年 末 考 査	文法：敬語について理解し、経緯の方向などを理解する。文法や単語の知識を用いて、自力で古文の読解ができるようになる。 古語：最重要語80語を身につける。 読解：枕草子、大鏡、栄花物語 他	(知)	・本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、その文化的背景を理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	○	○	○	○	22	
			(思)	・現在と過去とが交錯する文章展開を把握し、各場面における登場人物たちの思いを読み取っている。 ・我が国の言語文化について理解を深めるために、古典としての漢文を読むことに意義を理解している。	○	○		○		
			(態)	・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 ・これからの学習に見通しを持って、我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を持っている。			○	○		○
合計									78	

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	数学	科目：	数学B	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	新編 数学B（数研出版）	副教材	3 TRIAL 数学II+B+C（数研出版）				

年間指導目標：

数学における概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。

事象を数学的に考察したり表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにし、それらを活用する態度を育てる。

数学を用いた問題解決の過程を振り返って考察し、自己評価の基に改善しようとする態度を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・ 基本的な概念や原理・原則を体系的に理解する。 ・ 日常の諸問題を数学的な表現を用いて考察したり、数学的に解釈したりする力を身に付ける。 ・ 数学的な問題を的確に処理し、解決する。	・ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を養う。 ・ 数学的な表現を用いて社会における量や事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	・ 数学の良さを認識し積極的に活用しようとする態度、困難な問題にあっても粘り強く解決しようとする態度を養う。 ・ 問題解決の過程や自己の学習過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	1 章 数列 1 節 等差数列と等比数列 数列と一般項、等差数列、 等差数列の和 等比数列、等比数列の和	(知)	等差数列・等比数列とその一般項などを理解し、それらの和を求められる。	○	○				12
			(思)	等差数列・等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。等差数列・等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。	○	○		○		
			(態)	等差数列・等比数列に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	2 節 いろいろな数列 和の記号Σ、階差数列、 いろいろな数列の和 3 節 漸化式と数学的帰納 法 漸化式	(知)	和の記号Σの表し方や性質を理解し、数列の和が求められる。階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。	○	○				12
			(思)	数列の和を記号Σで表して、和の計算を簡単に行うことができる。 数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。	○	○		○		
			(態)	自然数の2乗の和を工夫して求める方法に興味をもち、自然数の2乗の和の公式を導こうとする意欲がある。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	漸化式、数学的帰納法	(知)	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められる。	○	○				16	
		2 章 統計的な推測 1 節 確率分布 確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散		(思)	複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられる。 確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。	○	○		○		
		(態)			数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。		○		○		○
2 学 期	期 末 考 査	確率変数の期待値と分散 確率変数の和と積、 二項分布、正規分布	(知)	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求められる。 連続型確率変数、正規分布について理解している。	○	○				16	
				(思)	確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 正規分布の特徴を活用して現実のデータについて考察することができる。	○	○		○		
					(態)	確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。 正規分布を様々な日常の事象の考察に活用する。		○			○
3 学 期	学 年 末 考 査	2 節 統計的な推測 母集団と標本、標本平均の分布、推定、仮説検定	(知)	母集団と標本、標本平均について理解し、母平均、母標準偏差を求めることができる。 推定、正規分布を用いた仮説検定ができる。	○	○				22	
				(思)	母平均や母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方が分かる。	○	○				
					(態)	現実に行われている様々な調査に興味を持ち、それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。		○			○
合計										78	

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	芸術	科目：	音楽基礎	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	自主教材	副教材					

年間指導目標：
・読譜能力の向上と応用 ・オペラやミュージカルなどの総合芸術において、物語と音楽が関わり合いながらどのような表現上の効果をもたらしているか考える。
・様々なジャンルの楽器の音色や響き、音楽との関りを理解し、そのよさや美しさを自ら味わって聴く。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・表現形態の特性を生かし、歌や楽器演奏への技能を身に付け表す。	・音色、リズム、形式、旋律、強弱などを知覚し、感受しながら考え、歌唱表現や器楽表現の意図を理解する。	・曲想や音楽の構造を理解しながら関心を持ち、主体的・協働的に取り組む。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学 期	中 間 考 査	・音楽理論（音程） ・発声、呼吸法、柔軟 ・リズムトレーニング ・簡単な歌唱	(知)	・他者との調和を意識して歌う技能 ・表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付け表している。		○	※	※	○	12
			(思)	・音色、リズム形式、強弱などを知覚し、感受しながら考え、歌唱表現としてどのように表すかについて表現意図を持っている。		○	※	※	○	
			(態)	・曲想が歌詞の内容や作曲者の思いなどによってもたらされていることを理解しながら、関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。		○	※	※	○	
1 学 期	期 末 考 査	・鑑賞（オーケストラの音楽や楽器について） ・様々なジャンルの音楽	(知)	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関りについて理解している。		○	※	※	○	12
			(思)	・楽器ごとの音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、感受しながらそれらの関りについて考えるとともに曲や演奏に対する評価について考え、音楽のよさを自ら味わって聴いている。		○	※	※	○	
			(態)	・オーケストラなどの様々な楽器の音色や響き、表現上の効果に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞学習に取り組もうとしている。		○	※	※	○	

2 学 期	中 間 考 査	・ソルフェージュ ・新曲視唱 ・聴音 ・発声、呼吸法	(知)	・正しい発声、呼吸などを意識しながら歌う。 ・技能、表現形態の特徴を生かして歌う。 ・技能を身に付け歌唱で表現している。		○	※	※	○	16
			(思)	・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、感受したことの関りについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持っている。		○	※	※	○	
			(態)	・音程、音色、リズムなどを意識し、主体的・協働的に鑑賞学習に取り組む。		○	※	※	○	
2 学 期	期 末 考 査	・総合芸術（レ・ミゼラブルより） 歌唱、学期演奏 ・鑑賞（総合芸術の音楽や楽器について）	(知)	・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関り、表現上の効果を理解している。		○	※	※	○	16
			(思)	・曲にふさわしい発声、発音、音色などの表現を考えるとともに、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。		○	※	※	○	
			(態)	・総合芸術において物語と音楽が関わり合いながら、どのような表現上の効果をもたらしているか関心を持ち、学習活動に取り組もうとしている。		○	※	※	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・西洋音楽史 ・鑑賞（オペラ、カルメン） ・グループ実習発表（打楽器アンサンブル）	(知)	・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関りについて理解し表現している。		○	※	※	○	22
			(思)	・音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、感受しながら、どのように表現するか理解する。		○	※	※	○	
			(態)	・物語と音楽の関りをどのように表現するか考え、器楽アンサンブルの発表に関心を持ち学習活動に真剣に取り組む。		○	※	※	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	芸術	科目：	美術Ⅰ	単位数：	2	指導学年：	1（AB）
担当教諭：							
使用教科書	「高校生の美術1」日本文教出版		副教材	自主教材・参考作品			

年間指導目標：

・美術の創造活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や文化と幅広く関わる姿勢や能力を育成することを目標とする。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。

			評価方法							配 当 時 数
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度			
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	
1 学 期	中 間 考 査	・デザイン 「デザインについて考える」デザインとアートの役割や社会的な意義について考察を行い、自らのデザインのアイディアを提案する。グループ・クラス内でのプレゼンテーションを行う。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	12
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。		○	※	※	○	
1 学 期	期 末 考 査	・素描（静物） 「幾何形体」 美術の表現に必要な素描の基礎について学ぶ。 ・鑑賞 デザインに関する内容の鑑賞を行う。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	12
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。		○	※	※	○	

2 学 期	中 間 考 査	・鑑賞 絵画「油彩模写」の導入となる鑑賞を行う。 ・絵画「油彩模写」 レオナルド・ダ・ヴィンチの作品「白貂を抱く貴婦人」を模写する。 絵画（油彩）の基礎的な表現技法について学ぶ。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	16
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。		○	※	※	○	
2 学 期	期 末 考 査	・絵画「油彩模写」 レオナルド・ダ・ヴィンチの作品「白貂を抱く貴婦人」を模写する。 絵画（油彩）の基礎的な表現技法について学ぶ。 ・鑑賞 映像メディアに関する内容の鑑賞を行う。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	16
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。		○	※	※	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・デザイン（構成デッサン） 意図やねらいを考えて任意のモチーフを構成しデッサンを行う。 ・素描「自画像」 人体の構造について理解を深める。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	22
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。		○	※	※	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業	科目：	テキスタイルデザインⅠ	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	無し	副教材	無し				

年間指導目標：

必修授業に組み込まれているテキスタイルの時間内ではなかなかできない、テキスタイル技法を使って、作品を制作する。

また、生活の中で使われているテキスタイルデザインの幅を実感し興味が持てるように、テキスタイル商品やテキスタイル作品を考える。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・布地素材のマチエールやボリリュームを変化させる基礎技法理解。 ・孔版印刷多色刷りを利用したパターン制作。 ・織機を使った平織技法と織地加工の理解。 ・プレゼンテーションボード制作の基礎。	・布地素材の特性理解から創作への工夫が見られる。 ・孔版印刷多色刷り技法を理解し、パターン制作が出来る。 ・平織技法を理解して、作品を完成させられる。 ・作品のプレゼンテーションボードを作り、紹介できる。	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学 期	中 間 考 査	ハーフボディによるピンワーク表現 ・90cm×90cmのプロードの布を裁断せずに、ハーフボディに、いかにボリリュームをだしてピンワークできるか考えて制作する。	(知)	・ハーフボディとマネキンの違い。ディスプレイの方法。 ・布地の違いと利用方法。		○		○	○	12
			(思)	・ピンワークの基本を理解できる。 ・形状に応じて違う利用方法を理解できる。 ・布(平面)からボリリュームアップ(立体)への基礎理解。		○		○	○	
			(態)	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。		○		○	○	
1 学 期	期 末 考 査	ハーフボディによるピンワーク表現 ・異素材を使用してピンワークする。 ・プレゼンボード制作	(知)	・アンビエ・ダブルビエ・タッキング・ギャザリングなどの技法理解。 ・技法同士の応用による作品制作とプレゼンボード制作。		○		○	○	12
			(思)	・止め布の形状を、様々な方法で変化させる。 ・流れ方、寄せ方を形状に応じて考えられる。 ・布(平面)からボリリュームアップ(立体)への工夫。		○		○	○	
			(態)	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。		○		○	○	

2 学期	中間 考 査	シルクスクリーンの多色刷り（クッションカバー） ・シルクスクリーンの原理を学び、多色刷りの版分解を理解する。	(知)	・孔版印刷の利用方法と製作プロセス。 ・プリント素材(布地)とインク等の素材特性。 ・多色刷りの条件と技法。		○		○	○	16
			(思)	・技法理解が作品設計に反映されている。 ・多色刷りの条件を理解して配色している。 ・版の位置調整と色別分解。		○		○	○	
			(態)	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。		○		○	○	
2 学期	期 末 考 査	シルクスクリーンの多色刷り（クッションカバー） ・柄につける送り(リピート)を理解する。	(知)	・リピート柄制作の技法理解。 ・素材マーキングの正確なポイント。 ・製版、版サイズの違いと調整方法。		○		○	○	16
			(思)	・多色文様のオリジナリティ。 ・リピート技法の効果的利用。 ・多色刷りならではの効果的な配色。		○		○	○	
			(態)	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。		○		○	○	
3 学期	学 年 末 考 査	ラヌ織りで制作した布を使用したの商品企画 ・平織の組織を理解し、ラヌ織の柄を考えて、織る。 ・織地加工の理解。 ・商品企画。	(知)	・経糸、横糸の違いと、織の特性と違い。 ・織地加工の基礎と応用。 ・商品企画の方法と、技法の応用。		○		○	○	22
			(思)	・織地加工を理解して設計から製作まで出来る。 ・商品開発のプロセスを理解して考えている。 ・織地の特性を考えて、商品開発を行っている。		○		○	○	
			(態)	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。		○		○	○	
									合計	78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業	科目：	デザイン材料実習	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	無し	副教材	無し				

年間指導目標：
さまざまな素材に触れ、それぞれに合った加工方法を習得する。また道具の使い方も学び、安全かつ正しい使い方を習得しながら授業を進める。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・素材に対応した立体造形の基礎。 ・金属の特性とジュエリー作りの基礎。 ・七宝焼きの技法。窯を使用した造形。 ・手び練による陶芸の演習。	・材料の特性と加工法、安全対策。 ・金属特性を利用したジュエリーの意匠。 ・配色と焼成時間を考えた七宝づくり。 ・陶芸粘土の特性を生かした生活用品のデザイン。	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	ジュエリー制作 ・ 洋白板材の指輪制作	(知)	・ 指輪制作の基礎。材料理解とサイズ合わせ。 ・ 洋白板の材料特性。 ・ 加工法の基礎。真鍮との違い。		○		○	○	12
			(思)	・ 材料の特性を理解している。 ・ 用途と材料特性を理解した意匠図案を作っている。 ・ 加工法を理解して作品を造形している。		○		○	○	
			(態)	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	ジュエリー制作 ・ 洋白板材の装飾品制作	(知)	・ 材料硬度の違い。特性を生かした造形法。 ・ より発展的な金属の加工法。 ・ 仕上げるための加工技術。		○		○	○	12
			(思)	・ 材料の特性を生かして発展的な作品を作る。 ・ ジュエリーとしての機能を考えた造形。 ・ 講評による作品制作の振り返り。		○		○	○	
			(態)	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	テラコッタ(陶芸) 手び練加工による植木鉢の制作	(知)	・テラコッタ(素焼加工)の概要。 ・特性の理解。焼成温度による色の違い。 ・器としての用途の理解。		○		○	○	16
			(思)	・手び練による造形の応用。 ・器としての用途を考えた意匠と造形。 ・機能性と美しさを考える。		○		○	○	
			(態)	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	エッチング 七宝焼作品制作のための腐食による金属加工	(知)	・七宝焼き材料の理解。 ・炉と焼成温度、発色の違い。 ・金属特性と腐食時間の理解。		○		○	○	16
			(思)	・完成後の作品を考えたアイデア展開。 ・材料特性を生かした発想。 ・七宝焼き焼成の為、凹凸の位置を考えたエッチング加工。		○		○	○	
			(態)	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	七宝焼 エッチング加工からの七宝焼焼成加工。	(知)	・金属とガラスの粉の特性。 ・電気炉による焼成の習得。 ・特性と焼成時間を利用した作品作り。		○		○	○	22
			(思)	・ガラス粉の特性を理解し、作品に活かしている。 ・焼成時間による発色の違いを活かしている。 ・完成後の仕上げも密度が高い。		○		○	○	
			(態)	・出席、態度等の授業取組の状況。 ・学習内容の理解と成果物への反映。 ・課題提出状況。		○		○	○	
									合計	78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・デザイン	科目：	基礎グラフィック	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	無し	副教材	無し				

年間指導目標：
1 学年において、修得したデザインに必要な基本的情報スキルを発展させるために、各制作プロセスを通じてデザインにおける情報処理活用能力を更に向上させる。また、各制作過程を通じてデザインの企画立案をも視野に入れた指導を行う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・ アイデアコンセプトの基本(発想の根拠)と造形法。 ・ グラフィックソフトの効果的な利用。 ・ 編集デザインの基礎とDTPオペレーション。	・ アイデアスケッチの量とアイデア統合による質の向上。 ・ 要望に合わせた造形修正と編集。 ・ アプリケーションを利用した作品品質の向上。 ・ 編集技術の向上と、条件に合う発想による成果物。	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学 期	中 間 考 査	イラストレーションの制作 キャラクターの企画設定、 ラフスケッチ ・ ドローソフトを利用した 制作作業 ・ ラフスケッチのスキャン ング	(知)	・ 企画内容の理解とアイデアスケッチへの反映。 ・ ドローソフト基礎操作とプロセス理解。 ・ 原画取り込みのためのアプリケーション操作 法。		○		○	○	14
			(思)	・ コンセプトと造形や配色の整合性。 ・ 造形へのアプリケーション特性の活かし方。 ・ スキャン後の修正。		○		○	○	
			(態)	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。		○		○	○	
1 学 期	期 末 考 査	イラストレーションの制作 アプリケーションを使った 作品制作 ・ ベジェ曲線によるトレ ース ・ 着色[グラデーションメッ シュ、グラデーション、ス ウォッチ等] ・ 印刷 講評会	(知)	・ ドローソフトでの書き方の基礎理解。 ・ 直線、曲線と接線の活かし方。 ・ グラデーションの効果と理解。 ・ 色調整と出力。		○		○	○	14
			(思)	・ 造形へのアプリケーションの活用法。 ・ 配色調整、造形調整。 ・ 出力時の確認と調整。 ・ 講評による振り返り。		○		○	○	
			(態)	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	DTPの制作 製品企画、モチーフの検討 広告レイアウトの検討	(知)	・ 広告の基礎。媒体の違いと宣伝方法。 ・ コンセプトの重要性と企画立案プロセスの理解。 ・ 要望にあったレイアウトとその基礎知識。		○		○	○	16
			(思)	・ 媒体に合った宣伝方法を考えている。 ・ 広告目的にあったコンセプトを立てている。 ・ イメージボードの完成度。		○		○	○	
			(態)	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	DTPの制作 ドローソフトを利用した制作作業 ・ 文字のアウトライン化によるロゴ制作、パスファインダー分割 ・ 着色[矩形変形、フィルター、テキストチャ等] ・ フォトレタッチソフトとの連携 ・ 印刷 講評会	(知)	・ 広告における文字配置の基礎理解。 ・ プーリアン演算を利用した造形方法。 ・ 写真加工技術の理解と利用方法。		○		○	○	16
			(思)	・ フォントバランスを考えた文字加工。 ・ 写真加工と色調整が作品に反映されている。 ・ 印刷出力と作品の振り返り。		○		○	○	
			(態)	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	エディトリアルデザイン メディアの市場調査 課題抽出とコンセプトメイキング アイデアの展開方法 ・ 文章資料による展開 ・ 音声資料による展開 ・ 映像資料による展開 講評会	(知)	・ 編集デザインの基礎。冊子の作り方と構成の理解。 ・ 冊子メディアにおけるコンセプトの立て方。 ・ 編集アプリケーションの効果的な利用方法。		○		○	○	18
			(思)	・ 冊子の構成を理解した編集方法。 ・ メディアの違いと構成を理解した作品。 ・ 講評による作品の振り返り。		○		○	○	
			(態)	・ 出席、態度等の授業取組の状況。 ・ 学習内容の理解と成果物への反映。 ・ 課題提出状況。		○		○	○	
									合計	78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・デザイン・クラフト・システム情報・ビジネス情報	科目：	初級CAD演習	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	なし	副教材	CADスーパーテキスト				

年間指導目標：
1. J I S規格で書かれた図面（製図）が読める。（C A D製図の理論を身に付ける。）
2. C A Dソフトが使い、トレースが出来る。（C A Dに関する操作方法（技能）を身に付ける。）
3. C A D利用技術者試験2級、又は初級C A D検定などの資格を取得する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	CAD製図に関する事象について、基本的な概念や基礎的な知識を理解し、論理的に探究する方法、その過程や結果及び考え方を身につけている。	機械製図のしくみや役割を考えさせて、社会における重要性を認識させる。機械製図の定義を広い意味から考察させ、広い意味の機械の定諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけている。	CAD製図に関する基礎的な知識と技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。

				評価方法					配当 時数	
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度		
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	
1 学期	中 間 考 査	CAD製図の基本的な操作 C A Dの基礎について	(知)	・ CAD製図の基本的な操作などを理解している。 ・ CAD製図について理解し、それぞれの特徴を理解している。		○			○	12
		① C A Dの概要について								
		② C A Dの基礎について	(思)	・ CAD製図に興味を持ちながら、基本操作方法を理解して、作図方法を判断し正解を導くことが出来る。		○			○	
			(態)	・ CAD製図を理解し、どのような特徴をもち、どのように利用されているかなどについて関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。		○			○	
1 学期	期 末 考 査	C A D製図の基本操作について	(知)	・ CAD製図の応用的な計算操作を理解している。 ・ CAD製図について理解し、それぞれの特徴を理解して作図している。		○			○	12
		① J I S規格について								
		② 製作図について	(思)	・ JIS規格に基づいたCAD製図に興味を持ちながら、複雑な図面等にも充分に理解して、正解な図面を描くことが出来る。		○			○	
			(態)	・ JIS規格に基づいたCAD製図の操作を理解し、どんな図面について関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。		○			○	

2 学 期	中 間 考 査	C A D 製図の機能について		・機械製図のしくみや役割を考えさせて、社会における重要性を認識させる。	○	○			○	16
		①C A D 製図の機能について	(知)	・機械製図の定義を広い意味から考察させ、こんにちでは広い意味や定義がより現実的なものであることを理解させる。						
		②C A D 製図システムについて	(思)	・機械に働く力の工学的意義に関心をもち、どのように設計・製図に役立てるかを探求し、理解しようとする。	○					
			(態)	・CAD製図を理解し、どのような特徴をもち、どのように利用されているかなどについて関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。					○	
2 学 期	期 末 考 査	(1)C A D 製図の機能について	(知)	・JIS規格を理解させる。 ・機械製図におけるJIS規格との関わりについて、具体的に理解させる。		○			○	16
		①C A D の製作図について	(思)	J I S 規格で書かれた機械図面が読める。 C A D ソフトが使うことが出来る。 C A D に関する操作方法を身に付けることが出来る。					○	
			(態)	・CAD製図において、機械的に働く性質について理解させる。 ・機械製図に関することに興味をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。		○			○	
3 学 期	学 年 末 考 査	(2)C A D 製図の機能について	(知)	・JIS規格を理解させる。 ・機械製図におけるJIS規格との関わりについて、具体的に理解させる。		○			○	22
		①C A D 製図における機械部品の製作図について	(思)	J I S 規格で書かれた機械図面が読める。 C A D ソフトが使うことが出来る。 C A D に関する操作方法を身に付けることが出来る。		○				
			(態)	・CAD製図において、機械的に働く性質について理解させる。 ・機械製図に関することに興味をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。		○			○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・ビジネス情報	科目：	アルゴリズム	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	なし	副教材	全商情報処理検定 模擬試験問題集（実教出版）				

年間指導目標：
1 コンピュータを使ったデータ処理の仕組みについて理解させる。
2 プログラミングに関する知識と技術を習得させる。
3 体験的学習を通して創造力や論理的な思考力を育成する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	プログラミングに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、目的に応じた情報の活用を目的として、コンピュータの活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用できる。	プログラムを利用して、データを加工するための思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する能力を身に付ける。	諸活動によって生じた情報を主体的に活用することを目指して、プログラムを利用してデータを加工するための思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。

					評価方法					配 当 時 数
		a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度				
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	
1 学 期	中 間 考 査	プログラミング基礎 (1)プログラミングの手順 ・プログラムの作成と実行 (2)データの入出力と演算 ・データの出力 ・変数 ・データの入力 ・いろいろな演算	(知)	ビジネスの諸活動と情報処理システムの関わりについて関心を持ち、データ処理の仕組みや役割の重要性を理解する。 プログラミングに必要なハードウェアの操作技術を身に付ける。	○	○	○			24
		(3)アルゴリズムの表現技法 ・流れ図 ・基本制御構造	(思)	見やすく分かりやすいプログラムを作成する意義を理解し、各種の応用的なプログラミング技法を身に付ける。	○	○			○	
1 学 期	期 末 考 査	(4)条件判定とくりかえし処理 ・判定 ・選択 ・一定回数のくりかえし ・条件によるくりかえし (5)オブジェクト指向の考え方 ・クラスの考え方 ・クラスの定義とオブジェクトの生成 ・オブジェクト指向の3大要素	(態)	一定回数処理を繰り返すための技法及び条件に応じて処理を繰り返すための技法を身に付ける。 オブジェクト指向に関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。				○	○	

2 学 期	中 間 考 査	プログラミング応用 (1)メソッドの利用 ・クラスとメソッド ・mainメソッド ・メソッド ・メソッドの使い方 (2)配列の利用 ・配列の考え方 ・配列による集計 ・配列の探索 ・配列による順位付け ・配列による並べかえ ・二次元配列の考え方 (3)例外処理とストリーム ・例外処理 ・ファイルの入出力	(知)	メソッドを利用する意義について理解させるとともに、関数を利用するための技法を身に付ける。 配列を利用する意義を理解する。	○	○	○			32
2 学 期	期 末 考 査		(思)	配列を利用した各種のプログラミング技法を身に付けるとともに、配列の有用性について考察を深める。	○	○			○	
			(態)	プログラムの実行中にエラーが発生した際に、適切な処理を行うための技法を身に付ける。				○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	ハードウェア・ソフトウェア (1)ハードウェア ・コンピュータの構成と特徴 ・データ構造 ・数値・文字の表現 ・論理演算 ・入出力装置 ・補助記憶装置 ・プロセッサ (2)ソフトウェア ・ソフトウェアの体系 ・基本ソフトウェア ・情報モラル	(知)	文字列を処理するための技法、静止画、動画、音声などを処理するための技法を身に付ける。	○	○	○			22
			(思)	コンピュータの利用にあたって必要な、ハードウェアとソフトウェアに関する知識を身に付ける。	○	○			○	
			(態)	高度情報化社会を生き抜くために必要な情報活用能力の重要性を理解するとともに、情報社会に参画する上での望ましい態度について考察を深める。				○	○	
									合計	78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業	科目：	ビジュアルデザイン	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	なし	副教材	CGリテラシー Photoshop & Illustrator（実教出版） Photoshopの本				

年間指導目標：

広報活動にかかわるビジュアルデザインに関わる広い知識と技能を習得させ、関連する活動を主体的・創造的に行う態度を育てる。
ビジュアルデザインにおける素材の扱い・ネットワークの活用・知的財産についての知識と技能を習得させる。
ビジュアルデザインがマーケティングの中で果たす役割について体験的に理解させる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	ビジネスの諸活動（広告・広報活動）におけるコンテンツの扱い、グラフィックソフトウェア等の活用、知的財産権について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、ネットワークの活用など関連する技術を身に付けている。	ビジネスの諸活動（広告・広報活動）におけるコンテンツの扱い、グラフィックソフトウェア等の活用、知的財産権に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者（広報担当者）として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	ビジネスの諸活動（広告・広報活動）を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるコンテンツの扱い、グラフィックソフトウェア等の活用、知的財産権に関わる問題に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	(1) 広告・広報活動の意義と役割 (2) 広報の手法 (3) デザインコンテンツの扱い (4) Photoshop実習 (5) 課題作成	(知)	広告・広報活動の意義と役割を理解し、素材の扱い方、ソフトウェアの操作方法、デザインの技法や役割、種類など理解でき、説明することができる。また、ネットワークの活用や個人情報や知的財産権についても理解し、説明することができる。		○		○	○	28
	(思)		広告・広報活動の意義と役割を理解し、素材の扱い方、ソフトウェアの操作方法、デザインの技法や役割、種類など理解でき、知識と技術が身についている。また、ネットワークの活用や個人情報や知的財産権に対する知識と技術が身についている。		○		○	○		
1 学期	期 末 考 査		(態)	広告・広報活動の意義と役割を理解し、素材の扱い方、ソフトウェアの操作方法、デザインの技法や役割、種類など理解しようとしている。また、ネットワークの活用や個人情報や知的財産権についても知識と技術を身に付けるため、主体的・協動的に取り組むことができる。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	(1) メディアの統合とソフトウェアの活用 (2) イラスト制作実習 (3) Illustrator実習 (4) 課題作成	(知)	広告・広報活動の意義と役割を理解し、素材の扱い方、ソフトウェアの操作方法、デザインの技法や役割、種類など理解でき、説明することができる。また、ネットワークの活用や個人情報や知的財産権についても理解し、説明することができる。		○		○	○	32
			(思)	広告・広報活動の意義と役割を理解し、素材の扱い方、ソフトウェアの操作方法、デザインの技法や役割、種類など理解でき、知識と技術が身についている。また、ネットワークの活用や個人情報や知的財産権に対する知識と技術が身についている。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査		(態)	広告・広報活動の意義と役割を理解し、素材の扱い方、ソフトウェアの操作方法、デザインの技法や役割、種類など理解しようとしている。また、ネットワークの活用や個人情報や知的財産権についても知識と技術を身に付けるため、主体的・協動的に取り組むことができる。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	(1) メディアの統合とソフトウェアの活用② (2) POP広告制作実習 (3) LINEスタンプ実習 (4) 課題作成	(知)	デザインの技法や役割、種類など理解でき、説明することができる。		○		○	○	18
			(思)	デザインの技法や役割、種類など理解でき、POP広告やグラフィックソフトウェアを活用するための知識と技術が身についている。		○		○	○	
			(態)	デザインの技法や役割、種類など理解でき、POP広告やグラフィックソフトウェアを活用するための知識と技術が身に付けるため、主体的・協動的に取り組むことができる。		○		○	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	商業・ビジネス情報	科目：	マーケティング	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	マーケティング（実教出版）		副教材	マーケティング問題集（実教出版）			

年間指導目標：
・マーケティングについて実務に活かせるよう体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
・自ら課題を発見し、ビジネスに携わるものとして科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
・ビジネスにおける「展開する力」の向上を目指して自ら学び、主体的かつ衝動的に取り組む態度を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。	現代の経済社会にあって、マーケティングの知識、技術などを活用し、課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、理論や市場の動向、データ、成功事例や改善した事例など科学的な根拠に基づいて工夫して解決することについて考えることができる。	ビジネスを展開する力の向上を目指して自ら学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、マーケティングに関わる政策の企画と実施などに責任をもって取り組んでいる。

		評価方法						
		a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度		
							</	

2 学 期	中 間 考 査	第5章 製品政策 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向	(知)	・製品政策について企業における事例と関連付けて理解している。	○					16	
		第6章 価格政策 1. 価格政策の概要 2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向	(思)	・製品政策に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善している。 ・価格政策を立案して実施し、評価・改善している。			○				
			(態)	・製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。					○		
2 学 期	期 末 考 査	第7章 チャネル政策 1. チャネル政策の概要 2. チャネルの選択と管理 3. チャネル政策の動向	(知)	・チャネル政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ・プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。	○					16	
		第8章 プロモーション政策 1. プロモーション政策の概要 2. プロモーションの種類	(思)	・チャネル政策に関する課題を発見し、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善している。 ・プロモーション政策の課題を発見し、立案して実施し、評価・改善している。			○				
			(態)	・チャネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、チャネル政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・プロモーション政策においても同様に取り組んでいる。					○		
3 学 期	学 年 末 考 査	第8章 プロモーション政策 3. プロモーション政策の動向	(知)	プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ・マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解している。	○					22	
		第9章 マーケティングのひろがり 1. さまざまなマーケティング戦略 2. サービス・マーケティング	(思)	・プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。			○				
		3. 小売マーケティング	(態)	・プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・実習に主体的・協働的に取り組んでいる。					○		
										合計	78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	商業・ビジネス分野	科目：	簿記	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	新簿記（実教出版）	副教材					

年間指導目標：
・ 会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、実務的な技術を身に付けるようにする。
・ 企業会計に関する法規と会計基準を学び、会計的側面から企業を分析する力を養う。
・ 学んだ知識を活かし、資格（日商簿記3級）取得を目指し、その知識を将来に活用できる能力を身に付ける。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	取引に関する考え方を学び、実践的な学習活動を行うなかで企業経営に関する知識と技能を身に付けている。	経営に関わる知識や技術を科学的な根拠に基づいて創造して課題に対応する力を身に付けている。	適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組んでいる。

評価方法												配 当 時 数
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度				
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e			
1 学 期	中 間 考 査 （ 授 業 内 ）	第1章 商品売買	(知)	・簿記の基礎的な知識を身に付けている。 ・資産・負債・純資産・収益・費用の種類、貸借対照表、損益計算書の構造や役割を理解している。 ・現金・当座預金の取引のしくみや流れについて、理解している。	○		○					
		第2章 現金預金										
		第3章 手形と電子記録債権										
		第4章 有形固定資産	(思)	・手形の使用方法や手続きの流れを考えながら、取り組んでいる。 ・電子記録債権・債務についての取引において、取引の流れと処理の仕方を創造しながら取り組んでいる。		○						
		第5章 その他の取引Ⅰ										
第6章 その他の取引Ⅱ	(態)	・簿記の学習に興味を示し、学習しようとする態度がみられる。 ・契約や取引についての処理や企業に関わる税金に関する知識を理解しようとしている。					○					

1 学 期	期 末 考 査 （ 授 業 内 ）	第 7 章 決算に関する取引等	(知)	・簿記上の取引の意味と仕訳の手順を理解している。 ・試算表の意味と作成法を理解している。 ・決算に関する整理事項やその記入方法について、理解している。 ・取引に必要な伝票について、書き方や使用方法を理解している。	○					12
		第 8 章 伝票の起票	(思)	・取引の分解と勘定記入、転記について適切に判断し、正確におこなえている。 ・仕訳帳・総勘定元帳への記帳を適切に判断し、正確におこなえている。 ・決算整理を行う上で、企業のお金の流れをしっかりとイメージして取り組んでいる。			○			
			(態)	・仕訳と転記に自ら進んで取り組んでいる。 ・記録を正確に行うことの大事さに関心を示している。 ・試算表がなぜ必要か考え、その役割について関心を持ち、把握するような態度を示している。 ・決算取引について、積極的に自ら取り組んでおこなっている。 ・伝票に起票について、書き方などの練習に取り組んでいる。					○	
2 学 期	中 間 考 査 （ 授 業 内 ）	第 9 章 補助簿の選択	(知)	・商品売買、掛け、手形に関する基本的な内容とその記帳法を理解して基礎的な技術を身に付けている。 ・3分法による記帳法や仕入帳・売上帳、商品有高帳に関する知識とその記帳法を理解している。 ・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。	○					16
		第 10 章 勘定記入	(思)	・現金・預金、商品売買、掛け、手形の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。 ・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等の記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。			○			
			(態)	・商品売買、掛け、手形の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしている。 ・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしている。					○	
2 学 期	期 末 考 査 （ 授 業 内 ）	第 11 章 商品有高帳	(知)	・補助簿の作成方法とそれぞれの帳簿の意味を理解できている。 ・補助簿の必要性和重要性を理解できている。	○					16
		第 12 章 小口現金出納帳	(思)	・どのような場面で補助簿を作成・使用するかを考えて取り組んでいる。 ・在庫管理や手形・小口現金などの使用方法や処理の仕方を考えて取り組んでいる。			○			
		第 13 章 手形記入帳	(態)	・実際の取引を想定して、作成に取り組んでいる。 ・現金だけでなく、取引に関する資産の動きを想定して取り組んでいる。 ・在庫管理の重要性を理解しながら取り組んでいる。					○	

3 学 期	学 年 末 考 査 （ 授 業 内 ）	第 1 4 章 売掛金元帳・買掛金元帳	(知)	・決算手続き、8桁精算表の意味を理解し、決算手続きに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・貸借対照表・損益計算書・財務諸表の作成方法を身に付けている。	○					22	
		第 1 5 章 決算 精算表の作成 財務諸表の作成 決算整理後残高試算表の作成	(思)	・なぜ決算整理を行うのか、なぜこのように整理仕訳を行うのかなどについて思考し、財務諸表を活用して企業の状況について判断し、決算結果を財務諸表に明瞭に表現できる能力を身に付けている。			○				
			(態)	・決算整理が企業の経営成績にどのような影響を与えるのかに関心を持ち、自ら考える態度を示している。 ・貸借対照表・損益計算書からビジネスの諸活動を把握しようとしている。					○		
										合計	78